2021
7
Vo.36

鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985-44-1816

アナグマ被害 特別警報※ 発表

※鳥獣センター独自によるものです。

・主に夜行性だけど、昼も行動します。
・食べ物への執着心が強く甘いものが大好物です。
・穴掘りが得意です。

⚠ アナグマ被害の報告が増えています！

県内の被害状況

令和元年度の県内のアナグマによる農作物被害金額は、約二千万円であり、獣類では、シカ、イノシシ、サルに次いで4番目の数字となっています。また、今年度も、アナグマ被害の報告や、相談が続々と寄せられています。

そこで、アナグマ被害特別警報※を発表する流れとなりました。

アナグマ被害の例

ー食害ー
・スイカやトウモロコシなどの被害が報告されています。
・特に、甘みのある作物へ強い嗜好性を示します。

ー建物への被害ー
・アナグマは大きな巣穴を掘り、その中で生活します。
・床下に大きな穴を掘られると、崩落の恐れが！

被害対策の順序

エサを与えない。
（アナグマを寄せ付けない!）
⇩
柵を設置・管理
（被害前に設置すること!）
⇩
被害をもたらす個体を捕獲

対策事例！

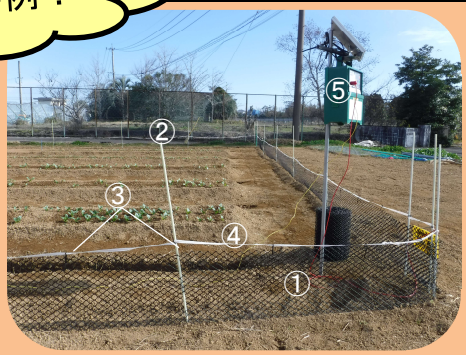
楽落くん・・・樹脂ネットと電気を組み合わせた複合柵

①楽落くんの特徴

・動物の行動特性を利用！
…35㎝程度のネットの高さが、動物の「探査行動」を引き起こし、鼻先で通電線に触れさせることで、感電させます。

・管理がラク！
…電気柵は、漏電防止のため、こまめな草刈りを必要としますが、本柵では、通電線が地面から約40㎝の高さにあるため、草刈り回数を省略できます。

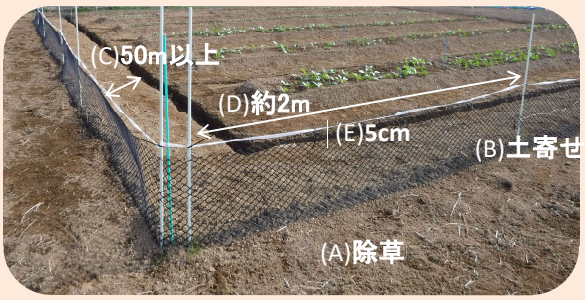
②必要資材



※100m設置する場合の目安

資材名	規格	数量
①楽落ネット	1巻50m	2巻
②ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾟｰﾙ	径8～10mm	約60本
③結束バンド	150mm	必要数
④通電柵	直径9mm	100m
⑤電牧器一式	推奨距離200m以上	1台

③設置時のポイント



(A)雑草が通電線に当たると漏電するので、除草する。
(B)楽落ネットと地面にすき間がないように、土寄せする。
(C)柵と作物の間は50㎝以上離す。
(D)支柱と支柱の間は約2m
(E)楽落ネットと通電柵の間は5㎝

～被害を防ぐ3箇条～

①被害が出る前に設置！
②設置した日に必ず通電！
（もちろん24時間）
③雑草による漏電に注意！

本柵は、【埼玉県農業技術研究センター】が開発したものであり、同センターのHP上に、設置マニュアルが公開されていますので、御参照ください。

被害対策に関する問合せ
西日杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

西臼杵地域

（課題）五ヶ瀬町の一部地区では、ブルーベリー、スモモ等の露地栽培が行われていますが、カラス等鳥類による収穫前の食害で、収量の減少と生産意欲の減退が問題となっていました。

（目的）令和２年度に、ブルーベリーにおいて、防鳥ネット被覆の効果を実証しましたのでご紹介します。

（作業性）実証ほ10アールの全面ネット被覆を、７月下旬に、２日間、延べ18人で設置しました。収穫期以外は折りたためるように、ほ場水平に被覆し（写真②）、９月上旬まで実証試験を行いました。

（経済性）当ほ場は、令和元年は鳥類の被害の影響で売上げは９万円でしたが、実証を行った令和２年は鳥類の被害が激減し、売上げが20万円となりました。設置費用は約25万円でしたので、複数年にわたり継続的に設置することで、経費回収も可能です。また、当ほ場はまだ幼木園であるため、今後の樹幹拡大による収量増加も見込まれています。

（問題点）一方で、９月の台風で大部分のネット被覆がはがれ落ちる被害がありました。

（問題点続き）台風直撃時は事前に折りたたむなど、簡易的なネット被覆に対応した台風対策等が必要です。

（今後の方向）「鳥から守れるほ場」になったことで、他の果樹品目や果菜類等への導入が期待されます。

①ネット設置前のブルーベリー園

②上部に全面張りネットを設置

中部地域

令和２年度は、新型コロナウイルスの影響で、会議や研修会等が中止される中、中部地区では、５地区で８回、管内の鳥獣被害対策マイスターによる研修会や現地検討会が開催されており、鳥獣被害が喫緊の課題であることを印象づける年となりました。

宮崎市加江田地区では、10月に木城町の有害鳥獣対策アドバイザーを招聘し、正しい鳥獣被害防止対策の研修を行いました。実際の現場での取組を元にした研修は、説得力のあるもので、地域の人たちの心に響いたのではないかと感じました。

また、鳥獣被害対策に取り組むためには、指導的立場の者が現場を知ることが重要であるため、７月に県本部を交え、市町担当者と綾町でカラスの捕獲檻の現地視察を行いました。

①鳥獣被害対策研修

初めてカラス捕獲檻を見る人ばかりで、檻を管理する猟友会の方の説明を熱心に聞き入っていました。

・捕獲檻の捕獲効率は、おとりのカラスを入れることにより高まるため、最初に捕獲したカラスをおとりとして活用している。

・檻には、天井部分の侵入口と側面の落とし扉があるが、落とし扉のワイヤーに捕獲したカラスが引っかかり死亡したため、天井部分からの捕獲のみに切り替えるなど、実際に使用すると予想外の不具合が起こっている。

・捕獲したカラスは水や餌がないと１日で死亡するため、毎日の補給が必要で、手間暇をかけて管理している。

・カラスは、イノシシ肉を好む。

など、現場でしか知り得ない知識も得られ、現場に行くことの重要性を実感したところです。

②カラス捕獲檻